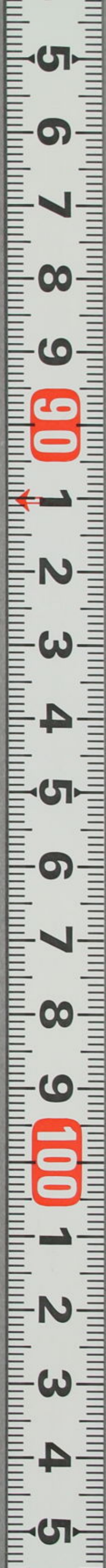


花淺州十社交庫

二

~ 13
3723
2



門へ13
3723
巻 2

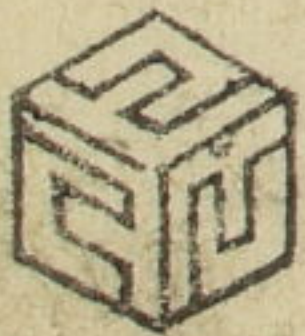
毛王雁川原春流齋
雁川原春流齋
雁川原春流齋
吉

雁川原

凡一帙二十張長く二場短く三場四場地を異人を異て見り人の目端を
新く草冊子の定法多しども其事を結ぶ後不残きを奇楠薫
らば衣の懐石食く茶を喫ぬ心ちのまじく癡痛き物多しと
云雲顧達の多るゆへ非其且大概は其其の結果生れと二續けふ
書綴る此思作猶三篇不到るも事ハ異と人物を僅十人
出入同し壺もか熟深の深く多のがよるんと飽らるる心づて
諱々しとの諱もあらずめど解易いを專一し言餘しとわくやうの幽妙
たる筆へつゝ半面美人の聯よりも額の三平二満の頼端張切やと
書詰りのが読ゆ徳用水茶舗の處女ども徒然ふ手は觸
あつて浅草の観音の利益とあふぐべー

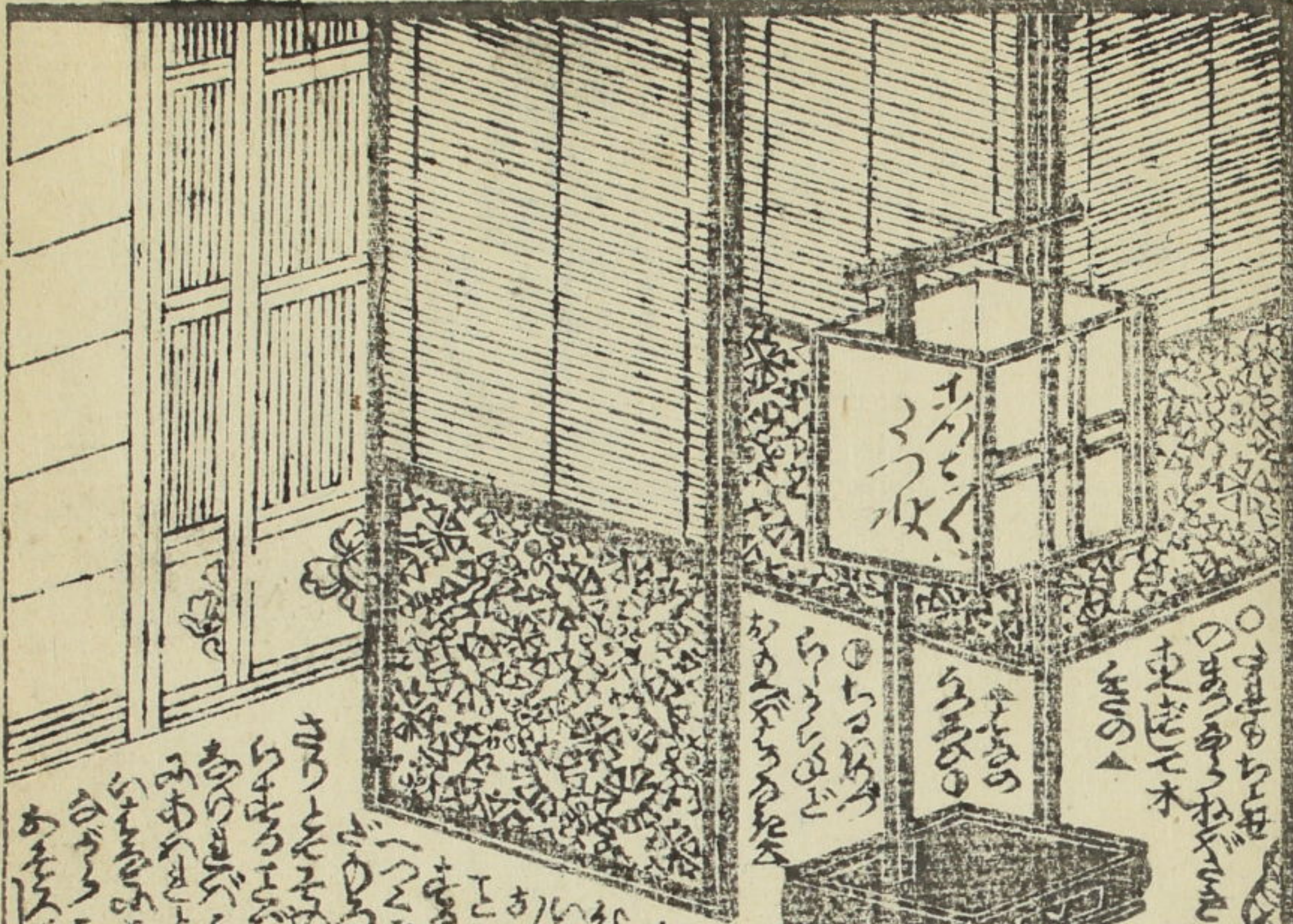
慶應三年丁卯春新版

柳亭種彦

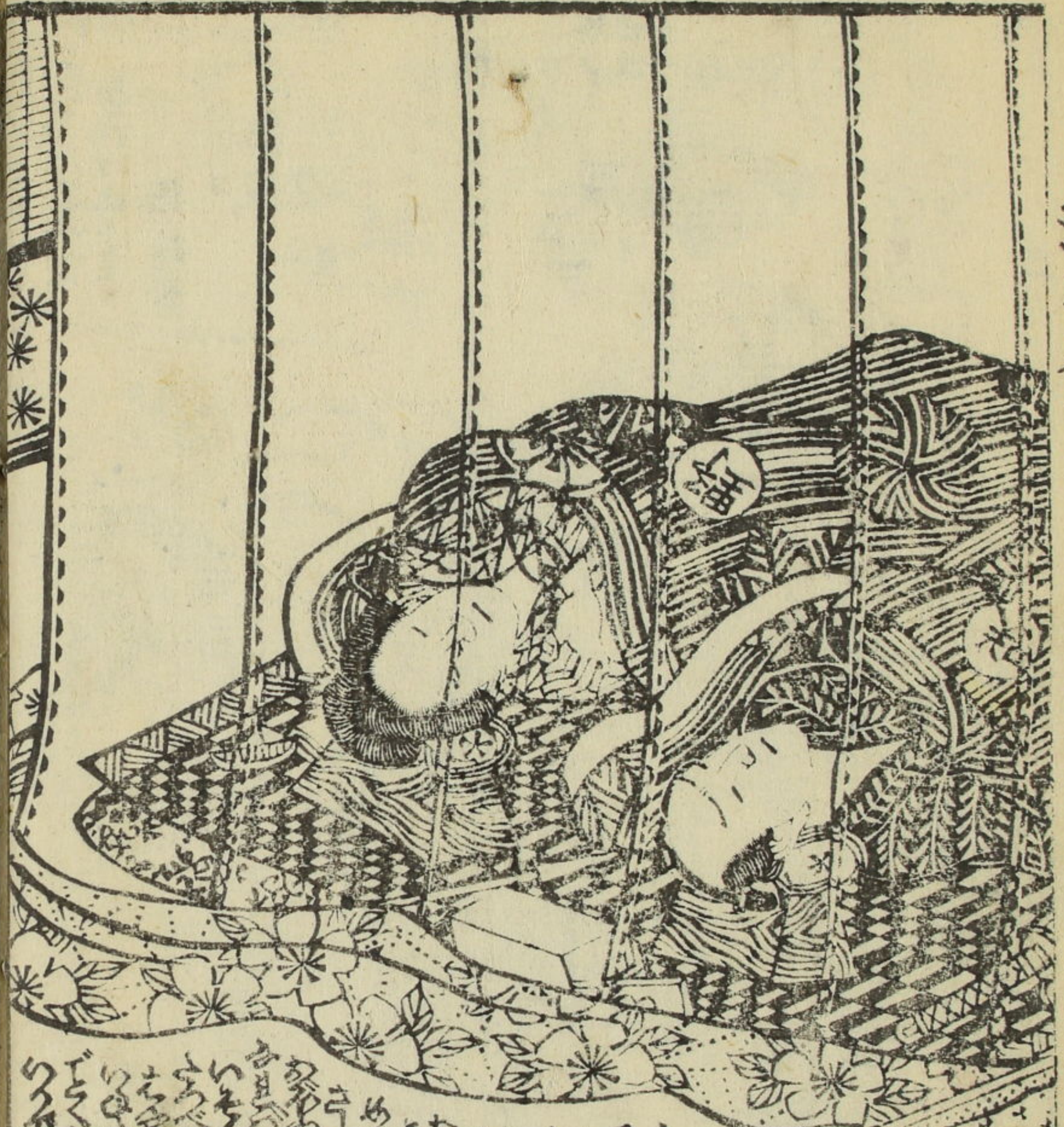


長直前二

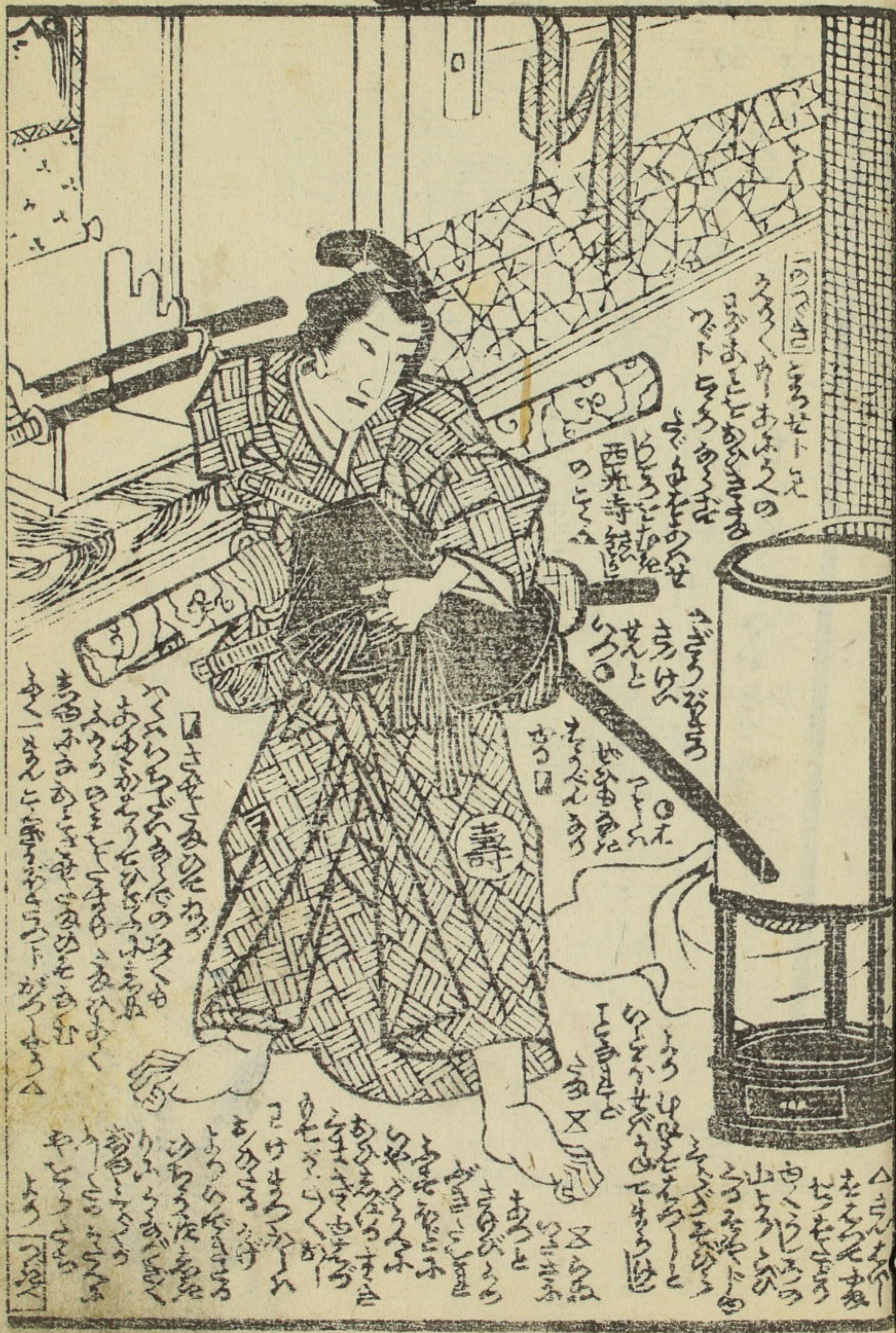




Handwritten text in vertical columns, likely a transcription of a story or dialogue. The text is written in a cursive style, typical of Edo-period Japanese manuscripts. It is arranged in several columns, with some text interspersed between the illustrations.



Handwritten text in vertical columns, continuing the transcription from the left page. The text is written in a cursive style, typical of Edo-period Japanese manuscripts. It is arranged in several columns, with some text interspersed between the illustrations.



Vertical text on the left margin of the first page.

Vertical text on the right margin of the second page.

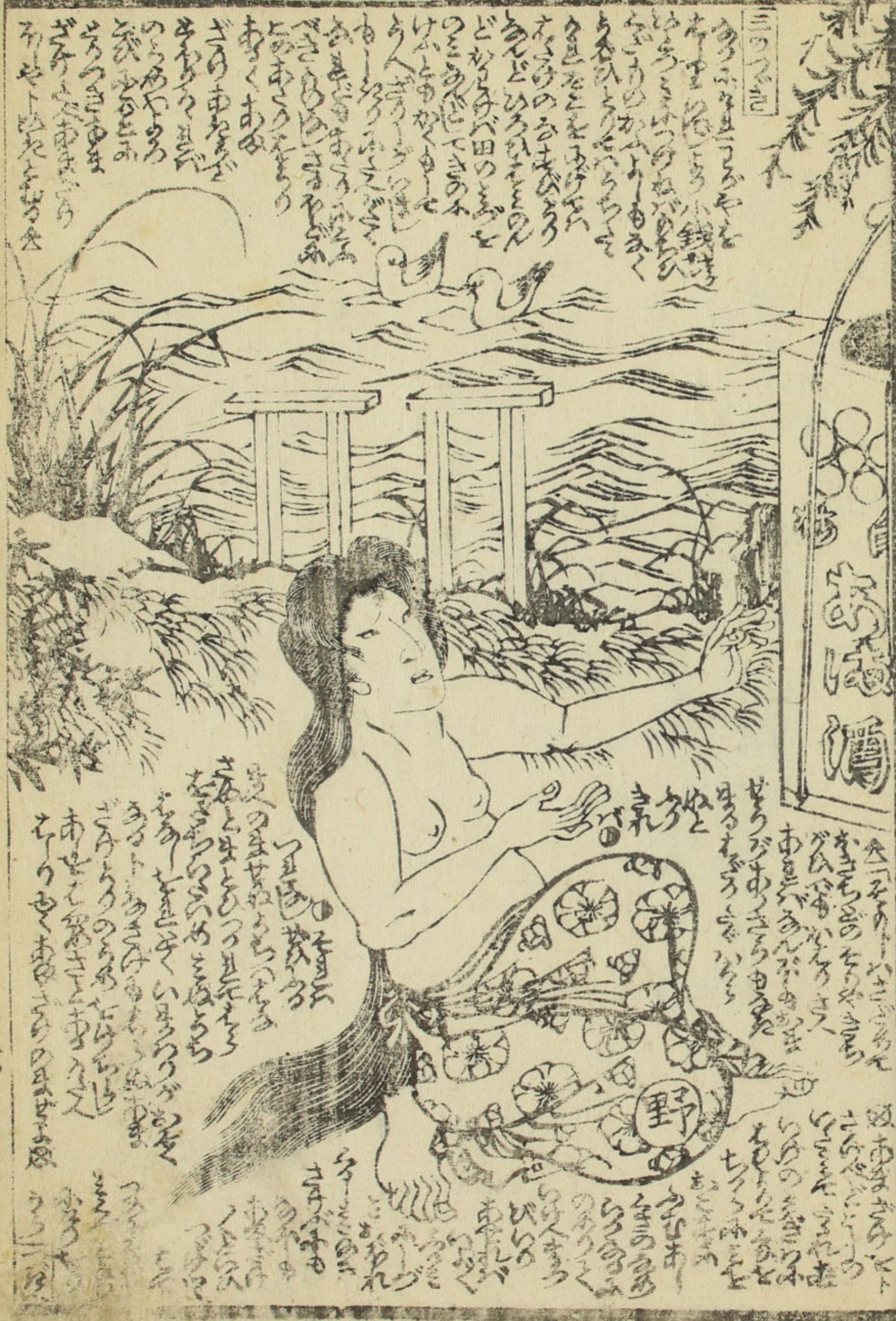
Small vertical text at the bottom right of the second page.



種彦著 國貞畫





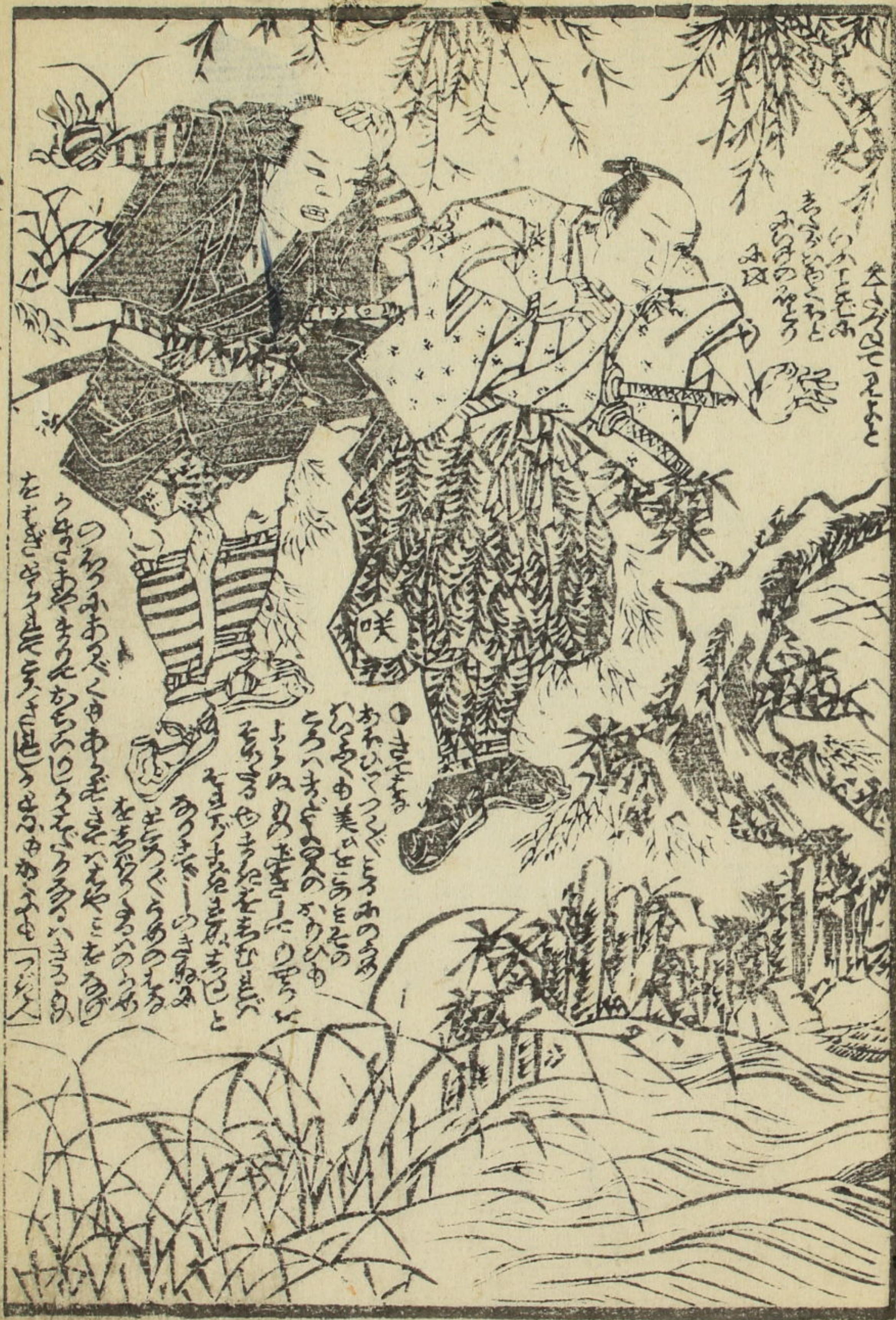


あつちのうららかに... せんせいのうららかに... せんせいのうららかに... せんせいのうららかに...

野... せんせいのうららかに... せんせいのうららかに... せんせいのうららかに... せんせいのうららかに...



あはれ... あはれ... あはれ... あはれ... あはれ...



文庫十一

あはれあはれと申すはなはた
うらやまの心はなほ
なすけぬかたはなほ
あはれあはれと申すはなはた
うらやまの心はなほ
なすけぬかたはなほ

あはれあはれと申すはなはた
うらやまの心はなほ
なすけぬかたはなほ
あはれあはれと申すはなはた
うらやまの心はなほ
なすけぬかたはなほ

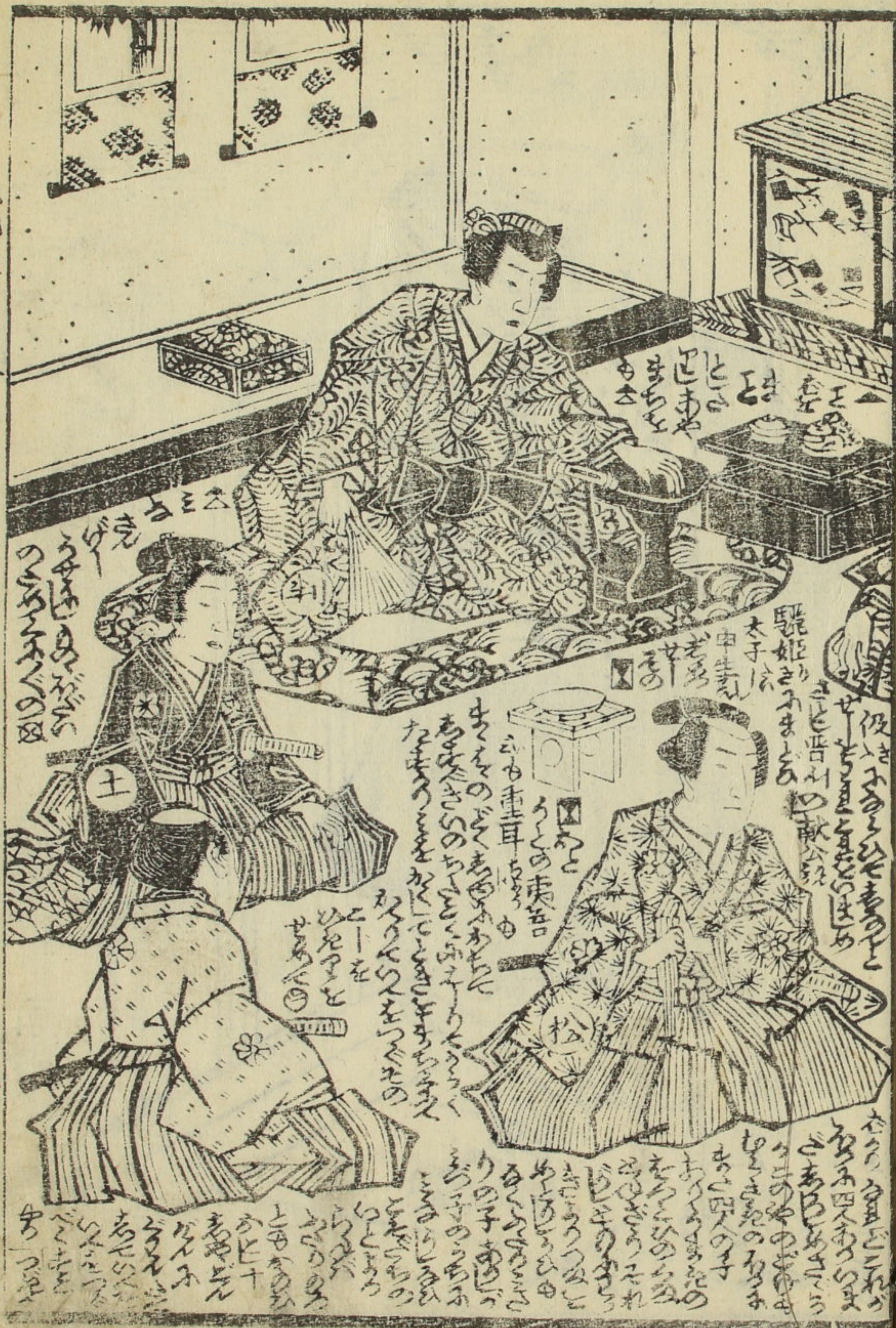
あはれあはれと申すはなはた
うらやまの心はなほ
なすけぬかたはなほ



文庫十一

あはれあはれと申すはなはた
うらやまの心はなほ
なすけぬかたはなほ
あはれあはれと申すはなはた
うらやまの心はなほ
なすけぬかたはなほ

あはれあはれと申すはなはた
うらやまの心はなほ
なすけぬかたはなほ
あはれあはれと申すはなはた
うらやまの心はなほ
なすけぬかたはなほ



柳亭種彦作



梅蝶樓國貞画

雁川原旅書

下
深
木

雁
川
魚
抄
者